

リハビリテーション風船バレーボール大会の開催が、 維持期・生活期リハビリテーションにもたらす影響についての考察

滋賀県作業療法士会

○石黒 望(近江温泉病院)

林 華子(ヴォーリズ記念病院)

小菅知子(介護老人保健施設ここの郷)

深津良太(介護老人保健施設リハビリセンターあゆみ)

東近江保健所

福井美代子(保健師)

加賀爪雅江(保健師)

東近江地域医療連携ネットワーク(三方よし研究会)世話人代表

小鳥 輝男(小串医院)

主旨

平成24年10月27日、第二回東近江リハビリテーション風船バレーボール大会を開催した。開催にあたって、選手等利用者に聞き取りを主体にしたアンケート調査を依頼し、現在の状況において大切に思うこと、重要に思うこと、目標にしていることなどを聞き取るとともに、開催前と開催後に、再び聞き取り調査を依頼しその変化から、大会の意義を確認するとともに、さまざまな聞き取り内容についてカテゴリー分けを実施し、質的評価を進めいくつかの大会意義を確認することができた。風船バレーボール大会への参加は、運動機能の改善を期待するものではなく、活動及び参加に対し働きかけ、この側面に対して一定の効果を示すものであることが確認できた。また各参加チームの選手の大会前後様子についての、さまざまなコメントについてキーワードを整理し、その内容をカテゴリー分けし、リハビリテーション風船バレーボール大会の開催意義について検討を加えた結果から、運動・心身機能的要素は、否定的要素に現れる傾向があり、活動・参加、特に参加のレベルで、より肯定的側面についてのコメントが多く見られた。また、個人因子ととらえられる事柄において、表面化されたコメントが多く、リハビリテーション風船バレーボール大会が、個人をクローズアップし、施設職員に新たな一面を見せる事となり、その後の生活に肯定的個人因子として印象付けることが確認された。これら肯定的要素が、コメントとして数多く示されたことは、リハビリテーション風船バレーボール大会が、参加者にとって意義のある活動であったことが示されるものと考えられた。また、全体を振り返り考察する中で、「活動・参加」という大会において強い意義が示された事柄は、一施設事業所の成熟のみで達成される課題ではなく、相互依存の概念のもとで初めて成立するものでもあり地域包括ケアシステムの円熟がこれらの活動を後押しするものとなることを期待する。これもまた「三方よしの精神」を引き継ぐものである。

【はじめに】

平成 23 年 10 月、東近江地域医療連携ネットワーク研究会（以下、三方よし研究会）主催、滋賀県作業療法士会共催のもと第一回東近江リハビリテーション風船バレーボール大会が開催された。三方よし研究会は、急性期・回復期・維持期の医療機関のほか、かかりつけ医、歯科医師、行政機関、介護事業所、消防など幅広い分野の関係者が参加し、「顔の見える関係作り」をキーワードに交流を深め、地域連携システムの構築が図られている。この三方よし研究会のネットワークをもとに、維持期・生活期で頑張っておられる障害者・要介護者の地域リハビリテーションの一環として、また社会参加、交流の場として、運動会のシーズンである 10 月に東近江リハビリテーション風船バレーボール大会を企画し開催された。「人は作業することで健康になれる」・・・この、日本作業療法士協会が掲げるスローガンの地域実践活動として、滋賀県作業療法士会が三方よし研究会とともに、リハビリテーション風船バレーボール大会の開催を企画し呼びかけた結果、今までつながりのなかった人たちが、体育館に集い、風船バレーボール大会という、誰もが参加し楽しめる機会を通して、当日の活動のみならず、当日に至る日々を含め生き生きとした活動の機会を楽しむことができた。そして急性期、回復期を経てその後の長きにわたり続く維持・生活期に定期的に開催され目標となるイベントとなることで維持・生活期における地域のリハビリテーションプログラムとして、そしてイベントとしての定着を期待されるものであった。そのことは、障害者、要介護者の地域社会のイベントへの主体的な参加を促す一助になるのではないかと考える。第二回の開催を迎えるにあたって、継続して参加される方の意識、また新たに参加される方々の意識の変化を追うことで、この企画の開催の意義について、調査し検証を加え、地域包括ケアシステム及び、地域リハビリテーションの在り方について考察を加え、この企画を例とする、各事業所・ケアマネージャーと連携した、介護者・障がい者アクティビティの必要性そしてその重要性について提案出来ればと考え、調査研究を実施した。

【方法】（資料 1～5 参照）

- ① 大会の開催：平成 23 年度に開催した第一回東近江リハビリテーション風船バレーボール大会を、第二回大会として企画し、開催することとした
- ② 参加チームに対し大会を通じて、生活行為向上マネジメントの作業聞き取りツールを使用し、当日 1 カ月前・当日 1 週間前・の各時期に、生活目標の聞き取りと、その実行度・満足度についての聞き取りを依頼し、各施設職員による聞き取りを依頼した¹⁾。
- ③ 大会終了後 1 週間以内に、すでに聞き取っていた生活目標について、その実行度・満足度についての再度、各施設職員による聞き取りを依頼した。
- ④ データを分析し、リハビリテーション風船バレーボール大会開催の意義を検証し、各事業所・ケアマネージャーと連携した、要介護者・障がい者アクティビティの必要性そしてその重要性について、KJ 法による質的評価のもと考察を加えた。

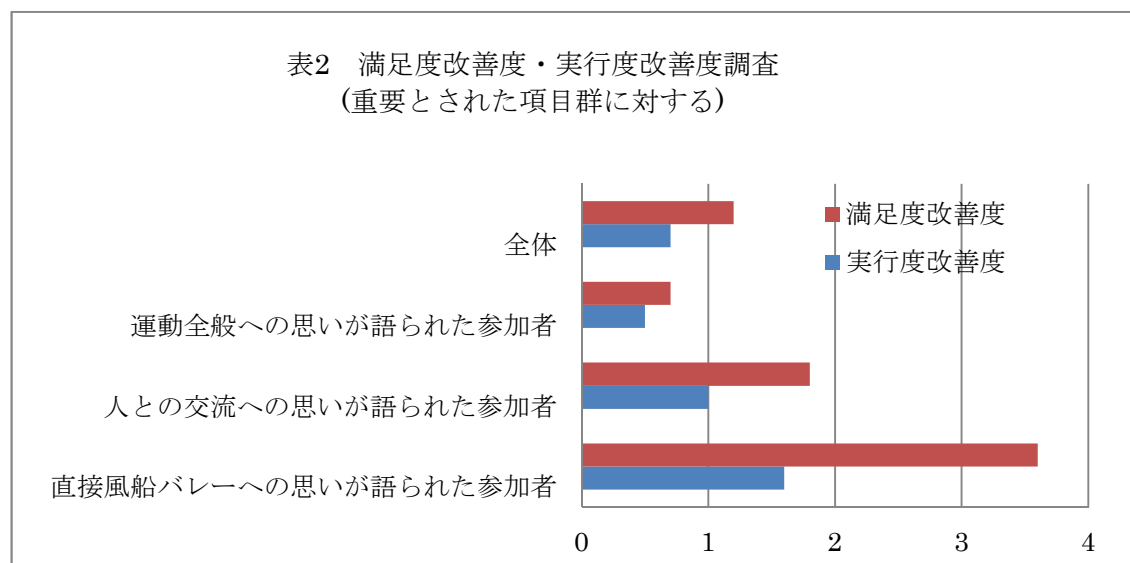
【結果】

第二回東近江リハビリテーション風船バレーボール大会を予定通り企画し、開催することができた。大会参加チームとして、東近江医療圏域の医療療養病床を抱える病院、介護老人施設、グループホーム・訪問リハビリを受けておられる要介護者、デイサービスセンター、認知デイ施設、など 8 施設 8 チームが参加し、学生ボランティアも 50 名が参加し、参加チーム関係者並びにボランティアを含む運営スタッフで述べ 150 名を超える参加者で開催された（資料 4）。

表 1 重要とされた項目群に対する実行度改善度・満足度改善度

現在の思い・重要に思うこと	実行度改善度	満足度改善度
直接風船バレーへの思いが語られた参加者	1.6	3.6
人との交流への思いが語られた参加者	1	1.8
運動全般への思いが語られた参加者	0.5	0.7

参加チームに依頼した聞き取り結果として表 1 の事柄が明らかとなった。参加チームに依頼した、生活向上マネジメントの聞き取り調査において述べられた「現在重要に思うこと」は、「直接風船バレーへの思いを語られた項目」「人との交流への思いが語られた項目」「運動全般への思いが語られた項目」の 3 つの項目に整理され、それぞれ、大会前後での変化として「直接風船バレーへの思いを語られた項目」に対しては、実行度5→6. 6、満足度4. 0→7. 6、それぞれ実行度改善度1. 6、満足度改善度3. 6。人との交流への思いが語られた項目」に対しては、実行度6→7、満足度5. 8→7. 6、それぞれ実行度改善度1. 0、満足度改善度1. 8。「運動全般への思いが語られた項目」に対しては、実行度4. 3→4. 8、満足度4. 1→4. 8、それぞれ実行度改善度0. 5、満足度改善度0. 7。という結果が得られた。これらの結果からは、風船バレーボール大会の企画が、運動機能の改善を期待するものではなく、活動及び参加に対し働きかけ、この側面に対して一定の効果を示すものであることが確認できた(表 2)



また、各参加チームの選手の大会前後様子についての、さまざまなコメントについてキーワードを整理し、その内容をカテゴリー分けし、表 3 に示すことで、リハビリテーション風船バレーボール大会の開催意義について検討を加えた、各カテゴリー分析結果から、運動・心身機能的要素は、否定的要素に現れる傾向があり、活動・参加、特に参加のレベルで、より肯定的側面についてのコメントが多く見られた。また、個人因子と捉えられる事柄において、表面化されたコメントがおおく、リハビリテーション風船バレーボール大会が、個人をクローズアップし、施設職員に新たに一面を見せることとなり、その後の生活に肯定的個人因子として印象付けることが確認された。これら肯定的要素が、コメントとして数多く示されたことは、リハビリテーション風船バレーボール大会が、参加者にとって意義のある活動であったことが示されるものと考えられる。

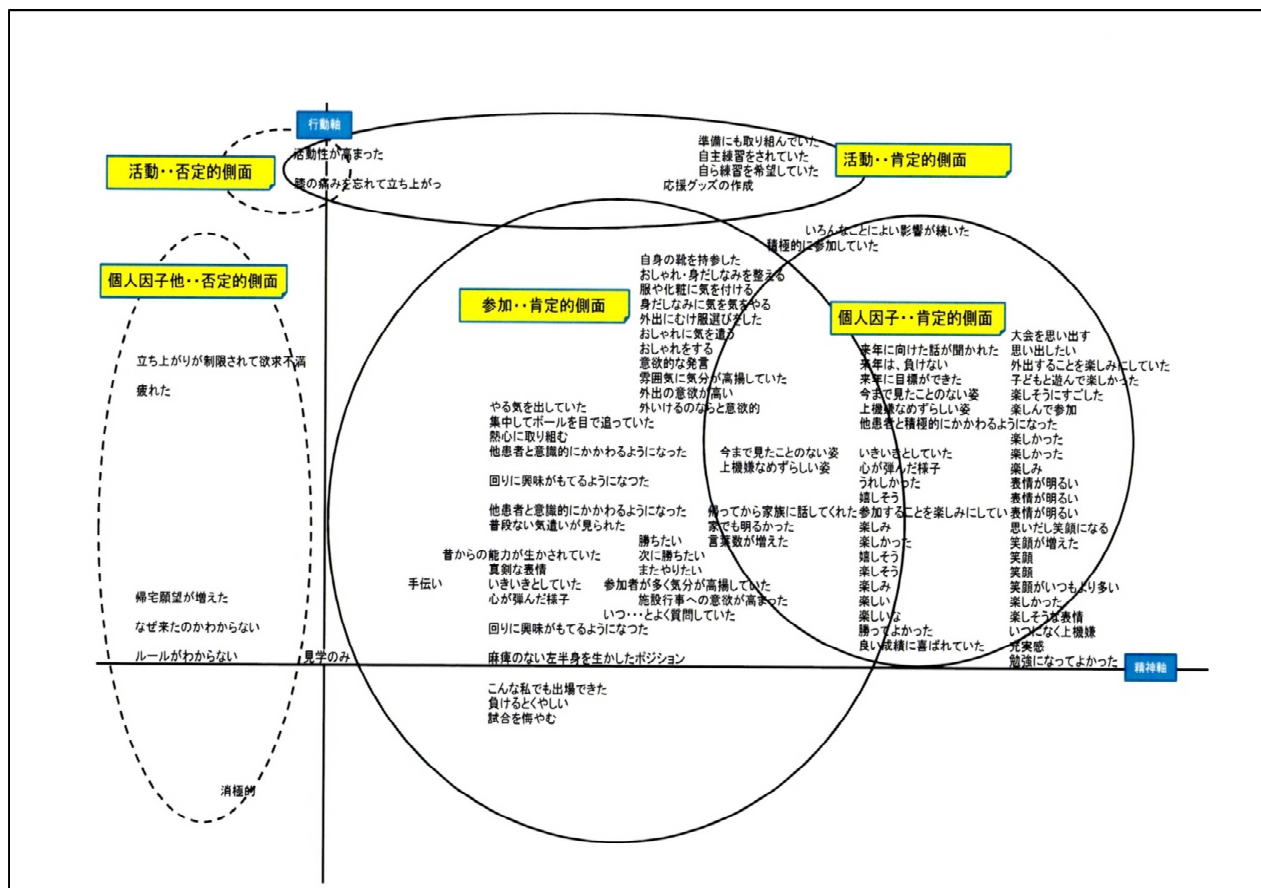
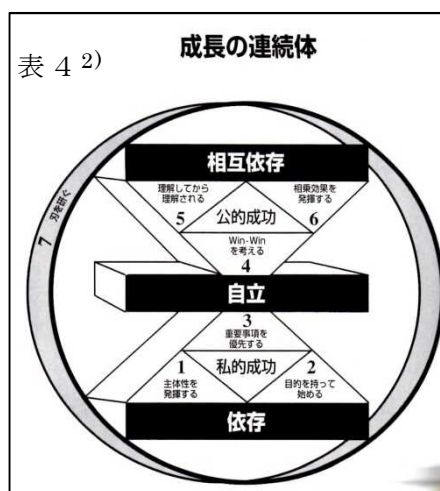


表 3:聞き取りシート・コメント内容のカテゴリー分析表

【考察】

今回の調査を通じて従来1施設内だけであったレクリエーションを、様々な施設の、様々な利用者が集う、地域全体で行うイベントとすることで、利用者の社会参加としての機会を提案し、その結果として参加・活動の肯定的要素の表面化とともに、個人因子の肯定的要素が表面化し、さまざまな新しい発見を認識できた。また各事業所等のスタッフが、多くの同じ仲間が集うイベントに参加することで、多くの肯定的再発見があったことが確認された。このことは、昨年参加した施設が、そのまま再度参加し、加えて新しいチームが加わっていることから立証されている。

現在、地域において多くの事業所が、在宅や施設で、要介護者等の生活期を支えている。それらの施設は、個々の施設事業所として、利用者に対し十分な役割を遂行している。そのように各施設事業所は、成熟することで地域の状況に左右されず、地域の状況に変化を及ぼすことができる存在となっている。しかしながら、地域包括ケアシステムの遂行にあたっては、一施設事業所の成熟が、目標ではない。一施設事業所の成熟だけでは、相互依存的に考えたり活動したりすることができず、一施設事業所としての業績は上がっても地域包括システムのチームとして、成熟したメンバーやリーダーとはいえない。地域包括ケアシステムのメンバーとしては、必要不可欠な相互依存の考え方(表 4) ²⁾を理解することが必要である。東近江圏域においては、三方よし研究会が活発な活動を実践している。この三方よし研究会に参加する施設は、一施設事業所の成熟を目



指すとともに、そのみを願うのではなく、地域住民のニーズに応えるべく、さまざまな資源との相互依存の概念の実践を意識した施設事業所と考える。2回目を迎えた東近江リハビリテーション風船バレーボール大会は、このような三方よし研究会の中でも、より成熟した施設事業所が、他の施設事業所と協力してより優れた成果を達成できるように、地域包括ケアシステムの模索を目的としたものであるともいえる。

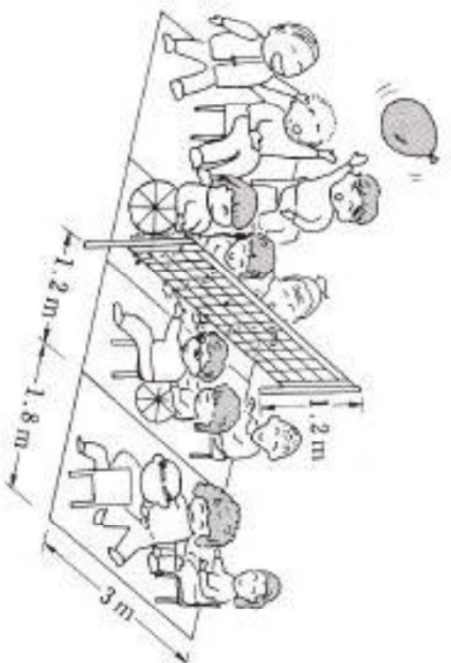
また、施設事業所単位ではなく、職種間相互依存の概念もまた地域包括ケアシステムにおいては重要と考える。東近江における三方よし研究会は、医師・歯科医師・看護師・保健士・薬剤師・管理栄養士・社会福祉士・介護福祉士・居宅介護支援専門員・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・行政機関職員・消防士・教育関係機関職員・図書館職員ほか、さまざまな職能団体が意見交換できる場である。東近江リハビリテーション風船バレーボール大会では、これら多職種の協力をもとめるイベントを目指すことも特徴といえる。職種間の相互依存により優れたアイデアや思考を生かすことができる。会場として東近江市立布引体育館を利用させて頂いたが、ここにおいても、一般の公共施設を多くの要介護者等が、杖や車いすで利用することで、公共施設として必要な設備について、会場関係者と意見交換する機会がしばしばあったことも、大きな意義があったと考える。東近江の「自立した施設事業所」そして「自立した職能団体」、そして「自立した行政機関」の相互依存関係は、地域包括ケアシステムを進めるうえで最も重要なものと考え、それらを一つのかたちとして、今後も東近江リハビリテーション風船バレーボール大会が、継続して開催されることを期待する。これもまた「三方よしの精神」を引き継ぐものである。

【結論】

リハビリテーション風船バレーボール大会の開催が、維持期・生活期リハビリテーションにもたらす影響について、大会の開催とともに、参加者に聞き取り調査を実施しそれらをもとに考察を加えた。

第二回東近江リハビリテーション風船バレーボール大会を開催し、その意義について、調査し検証・考察を加えた結果、生活期・維持期を支える地域リハビリテーション活動でもある風船バレーボール大会の企画は、運動機能の改善を期待するものではなく、活動及び参加に対し働きかけ、この側面に対して個人因子を含め一定の効果を示すことが確認された。また、考察を加える中で本大会が、各施設事業所・各職能団体が連携を強化し、相互依存の概念²⁾を成熟させ地域包括システムの構築のための一つの活動として意義深いものとして認識することができた。

「風船バレーボール」 競技規則



1 チーム 6 名からなる 2 つのチームが、コートの中央に設けられたネットを挟んで、互いに風船を打ち合って得点を争う。

I. 競技場と用具

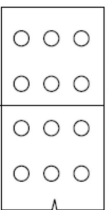
- 1) コートは上図の通りで、ライン幅は 5 cm を標準とし、ラインはコート内に含まれる。(風船の一部がライン上に接地すればコートの中と見なす)
- 2) ネット：高さは 120cm を標準とし、バドミントン用ネットを利用する。
- 3) ボール：風船で約 40×35 cm を標準とする。

II. チームと競技者

- 1) 1 チーム選手 6 名、交替選手 4 名以内、監督 1 名の構成で、選手の一人はキャプテンとする
- 2) 監督、キャプテンはタイムアウトと選手交代を要求できる。タイムアウトは 1 セットにつき 1 回で、1 分間とする。選手交代は各セットの開始時またはタイムアウト時とする

III. 競技者の位置と競技姿勢

前衛・後衛の各 3 名ずつの配置とする。競技姿勢は椅子坐位（車椅子）を原則とする。



各チームとも・・・選手の配置を決めて、速やかに移動します。セツケンをチームで用意されているチームは、事前に付けておくてください。・・・セツケンと、位置とは関係ありません。

IV. 競技の進行

- 1) 主審の合図で開始する。コートチェンジは行わない。
- 2) 得点は次の場合、相手チームの得点にする。
 - a) サーブミス失敗した場合
 - b) ボールを相手コート内に返球できない場合
 - c) 反則をした場合（Ⅶ項目参照）
- 3) 競技の勝敗は以下の通りとする。

＜決勝戦以外＞

1 ゲーム 1 セット制

原則 1 セットは、20 点で制限時間は 15 分とする。

＜決勝戦＞

1 ゲーム 3 セット制とし、2 セット先取したチームの勝ちとする。

1 セットは 10 点、ジョース制とする。

また、1 セットの競技時間は 10 分以内とし、10 分経過した時点で得点の多いチームが 1 セット勝った事とする。10 分経過時点で同点の場合は、ジョース制とする。

10 点で選手交代の時間を取るの
で、必要なチームは選手交代を速や
かに・・・お願いします。
・決勝以外は、ジョース制なしです。

決勝は、選手交代は、セ
ット終了時において
します。

V. ボールの扱い

ボールは故意でない限り、椅子（車椅子）を含め体のどの部分を使ってもよく、何回でも打てる。ドリブルやオーバータイムアタックスの反則は無い。

サーブは、2 本までは、OK とし、3
本目の失敗は、失点と変更します。

VI. サーブの方法

サーブミスの本数は 1 本で、コート内の競技位置よりどの選手が行ってもよい。前衛はアンダーサーブ、後衛はオーバーサーブを原則とするが、出来ない場合はゆっくりと投げ入れてもよい。第 1 セットの最初のサーブミス権は代表のジャセケンで決め、それ以降は得点をしたチームがその権利を有する。第 2 セット以降の最初のサーブミス権は前セットを失ったチームが有する。

VII. 反則

- 1) オーバーネット
- 2) ホールディング
- 3) 坐位選手が浮き腰・立位で競技した場合
- 4) その他、審判員が反則と判断した場合

不慣れた審判ではありますが、判定には従
ってくださいね・・・お願いします。ご協
力を

VIII. 審判員

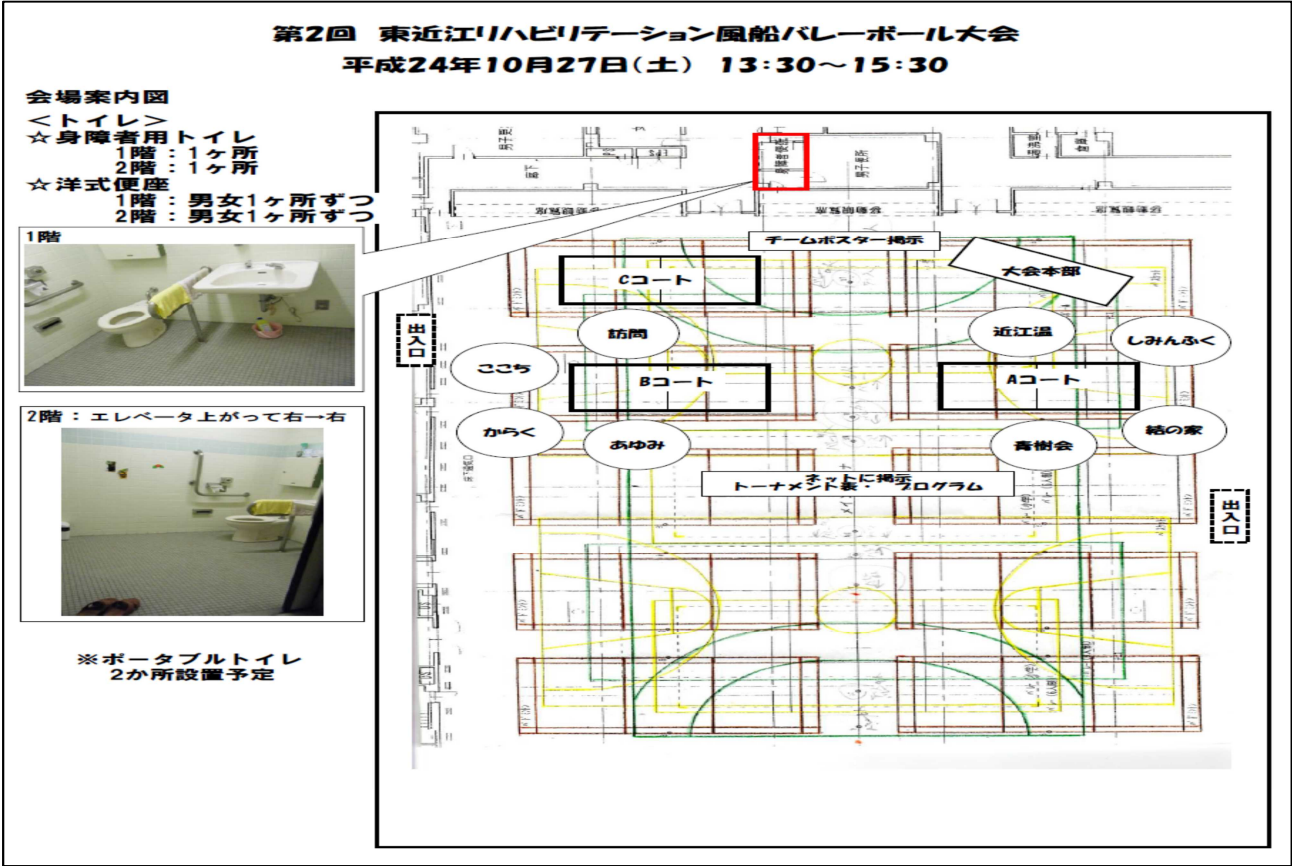
審判員は、主審 1 名、副審 1 名、線審 2～4 名とする。主審は、競技の進行・判定に関するすべての責任を持ち、副審、線審は主審を補佐する。また、選手に事故が無いように試合を運営する。

H23.6.14

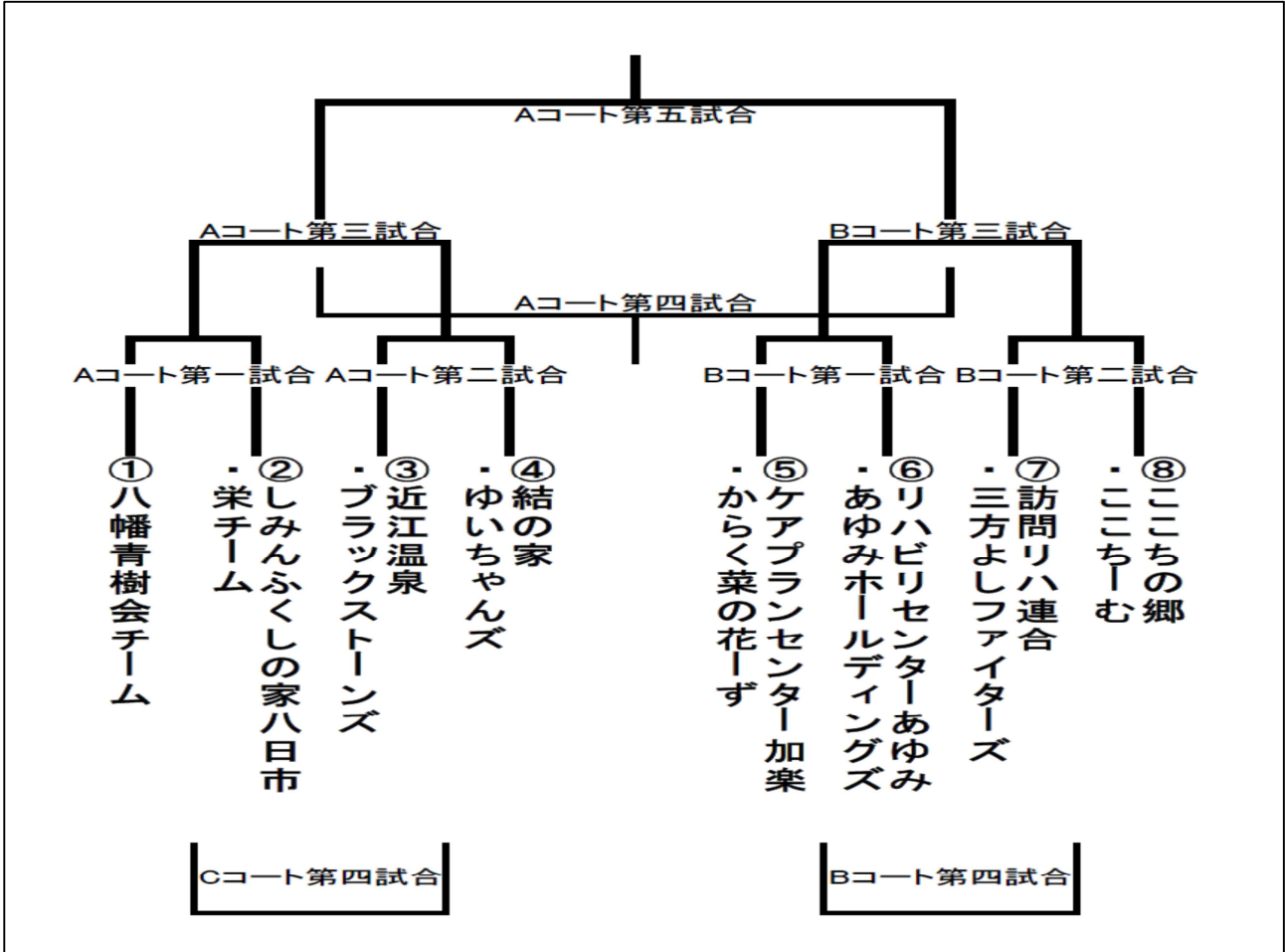
滋賀県作業療法士会 作成

H23.9.6 改定

料 2:会場レイアウト



資料 3:対戦トーナメント表



資料 4:大会風景



作業聞き取りシート

参加者

年齢

歳

性別

男

女

(提出の際には、参加氏名・年齢・性別など上記は消去にて提出をお願いします)
認知症や寝たきりを予防するためには、家事や社会活動などの作業を維持し、参加していることが重要です。

1 そこであなたが、もっとうまくできるようにしたい、あるいは、うまくできるよ
うになる必要があると思う事柄で、良くなりたい、改善してみたいと思う事柄があ
りましたら、3つほど教えてください。

3 もし、目標がうまく思い浮かばない場合は、興味・関心チェックリストを参考に
確認してみてください。

2 生活行為や作業の目標が決まりましたら、次にそれぞれについて1～10点の範
囲で思う点数をお答えください。

①実行度・・・左の目標に対して、どの程度実行できている（頻度）と思うか。
十分実行できている場合は実行度10点、まったくできない場合は実行
度1点です。

②満足度・・・左の目標に対して、どのくらい満足にできている（内容・充実感）と
思うか。
とても満足している場合は満足度10点、まったく不満である場合は満
足度1点です。
まったくできない場合実行度1点、まったく不満である場合満足度1点
です。

生活行為・作業の目標	自己評価		約1月前	約1週間前	約1週間後
	実行度	満足度			
目標1	実行度	満足度	/10	/10	/10
	達成の可能性		☐ 有 ☐ 無		
	実行度	満足度	/10	/10	/10
目標2	実行度	満足度	/10	/10	/10
	達成の可能性		☐ 有 ☐ 無		
	実行度	満足度	/10	/10	/10
目標3	実行度	満足度	/10	/10	/10
	達成の可能性		☐ 有 ☐ 無		

Copyright 2011. (社)日本作業療法士協会 All Rights Reserved.

風船バレーボール大会への参加を通じての、利用者さんの様子をお聞かせください

参加 1 カ月前後の様子と、参加が近づくにつれて利用者さんの変化、そして当日の様子、終了後 1 週間後の様子など・・・なんでも結構ので、利用者さんの活動について気になったこと、変化など、お聞かせください。

前回参加者の方については、前回の参加時との違いなどあれば、なんでもお聞かせください。

以上今後の、活動の参考とすともにもこれらの結果は、東近江三方よし研究会・滋賀県連携リレリフ・リョウ学会にて報告させていただきます・・・ご協力有難うございました。

Copyright 2011. (社)日本作業療法士協会 All Rights Reserved.

【引用参考文献】

- 1) 社団法人日本作業療法士協会監修:“作業”の捉え方と評価・支援技術, 医歯薬出版, 2011.
- 2) スティーブン・R・コヴィー:7つの習慣, キングベアー出版, 1996.

